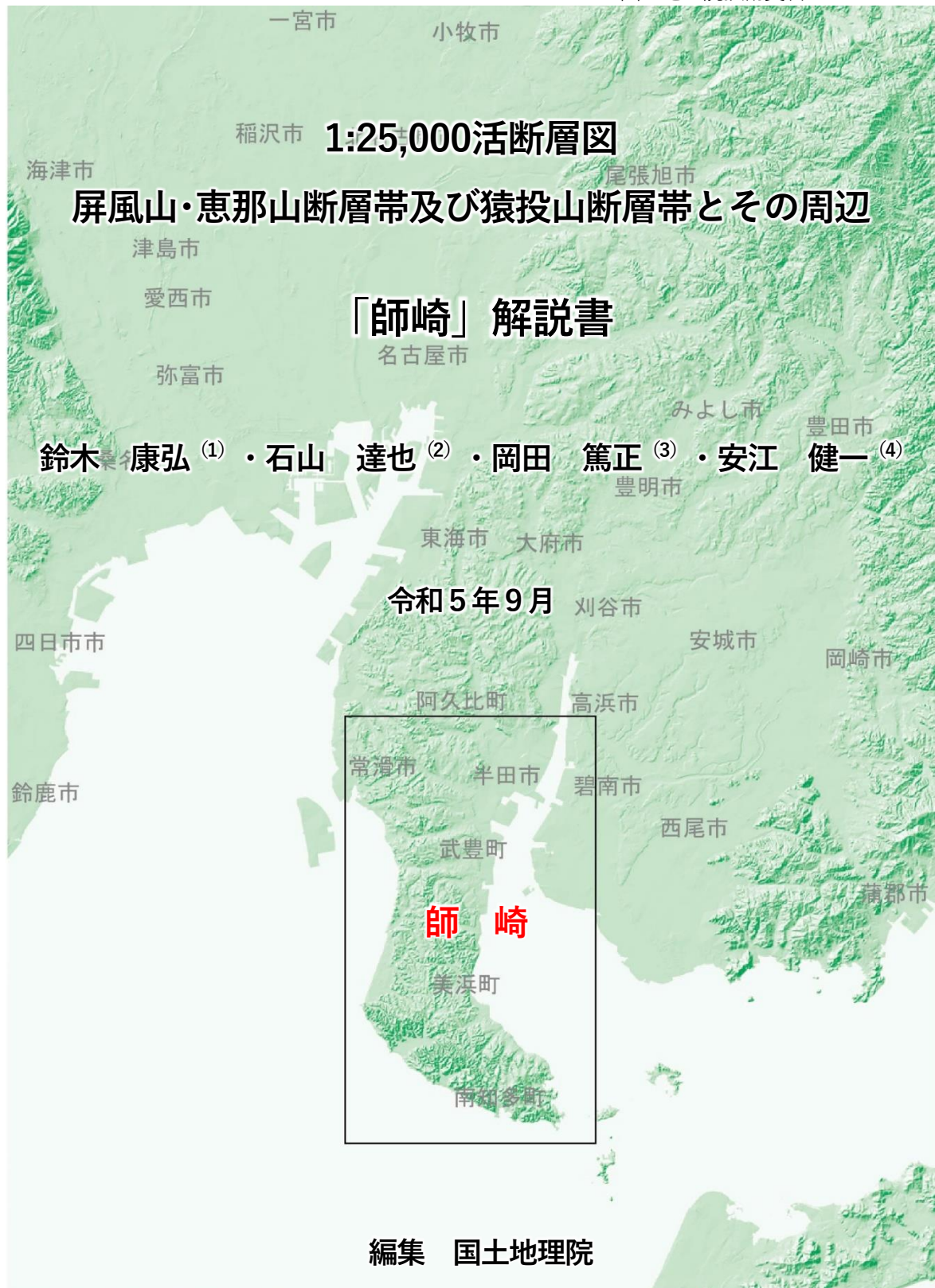


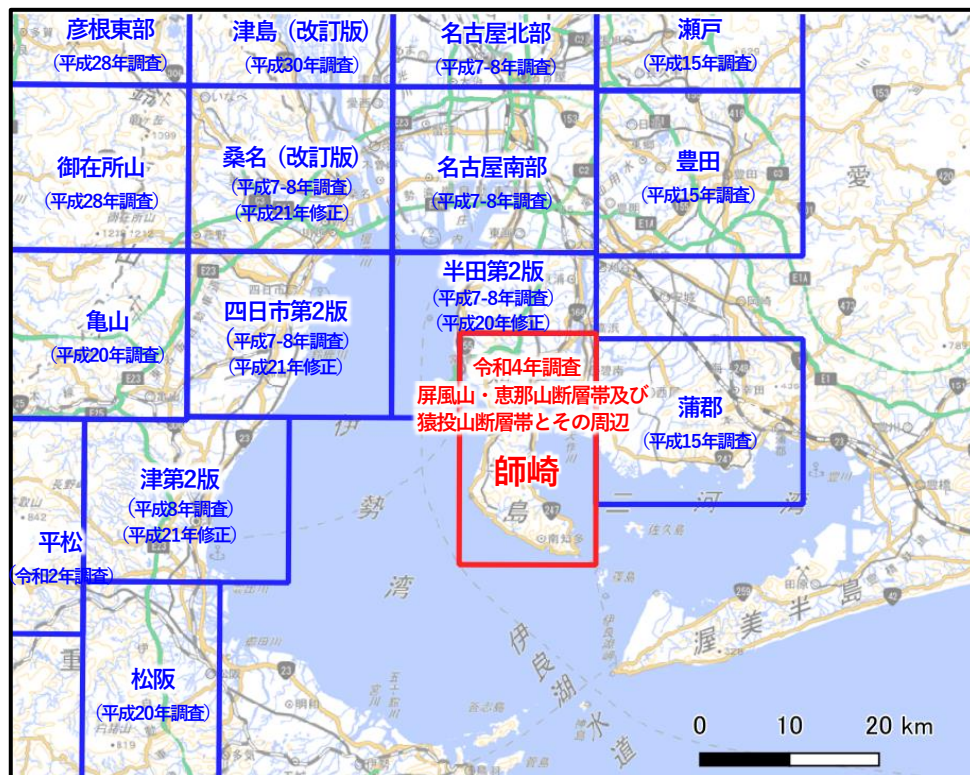


(1) 名古屋大学, (2) 東京大学, (3) 京都大学名誉教授, (4) 富山大学

目 次

1:25,000 活断層図 屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯とその周辺「師崎」解説書

1. 高浜撓曲 ^{たかはま}	2
2. 半田－武豊断層 ^{はんだ たけとよ}	3
3. 成岩断層 ^{ならわ}	4
4. 東大高撓曲 ^{ひがしおおだか}	5
5. 富貴西方撓曲 ^{ふうきせいほう}	5
6. 千代ヶ丘撓曲 ^{ちよがおか}	6
7. 広目撓曲 ^{ひろめ}	6
8. 桧原撓曲 ^{ひばら}	7
9. 別曽池撓曲 ^{べっそいけ}	7
10. 豊丘撓曲 ^{とよおか}	8
11. 神戸川沿いの断層 ^{ごうどがわ}	8
12. 河和付近の断層 ^{こうわ}	9
13. 古布断層 ^{こう}	10
引用文献	10
使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等	11
付図（断層索引図・地形断面図）	13



令和4年調査図郭 令和3年以前の調査図郭

1:25,000 活断層図「師崎」作成位置図

1:25,000活断層図 屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯とその周辺「師崎」解説書

屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯は、恵那山地、三河高原と美濃山地との境界から、岡崎平野・知多半島に至る活断層帯である。地震調査研究推進本部地震調査委員会(2004)は、屏風山断層帯、赤河断層帯、恵那山－猿投山北断層帯、猿投－高浜断層帯及び加木屋断層帯に区分しており、猿投－高浜断層帯及び加木屋断層帯については、以下のようにまとめている。

猿投－高浜断層帯は、愛知県西加茂郡藤岡町※から大府市を経て、西尾市に至る。全体の長さは約51 km で、屈曲点を境に北側では北東－南西方向、南側では北北西－南南東方向に延び、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層である。一方、加木屋断層帯は、愛知県東海市から半田市を経て知多郡南知多町へ、南北にのびる。長さは約35 kmで、断層帯の北半部は断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層で、断層帯の南半部は断層の東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層である。

※藤岡町は、2005年の豊田市との合併により、現在の豊田市北西部に位置する。

本図の作成において、あらためて大縮尺の航空写真や詳細な地形標高データを判読し直した結果、従来の見解からの変更が多い。

本図には、次の断層が掲載されている。なお、断層ごとの番号は巻末の「付図(断層索引図)」(以下「断層索引図」という。)に対応するものである。活断層としては、猿投－高浜断層帯に属する高浜撓曲(1)、猿投－高浜断層帯から分岐すると推定される半田－武豊断層(2)、加木屋断層帯の中央部から南端部に含まれる成岩断層(3)、東大高撓曲(4)、富貴西方撓曲(5)がある。知多半島西岸部および中軸部には千代ヶ丘撓曲(6)、広目撓曲(7)、桧原撓曲(8)、別曾池撓曲(9)がある。さらに南方の美浜町および南知多町には豊丘断層(10)が認められる。また、推定活断層としては、北部の神戸川沿いに神戸川沿いの断層(11)、知多半島中軸部の南に河和付近の断層(12)および古布断層(13)がある。

なお、海域活断層は既存資料においてその存在位置が十分に明らかにされているもののみ記載している。本図幅において衣浦湾および三河湾内は記載の対象外とした。

以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する(下記の断層ごとの番号及び記号は、「断層索引図」に記載した番号及び記号に対応)。

1. 高浜撓曲

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約2 km (本図郭内の掲載部のみ)
- ・断層種別 : 活断層 (活撓曲)

(※上記の各諸元については、本図郭内に掲載している部分の計測及び確認結果であ

る。)

1) 概要

高浜撓曲は、高浜市から碧南市を経て西尾市に至る活断層である。本図郭内では、北西－南東走向の長さ約2 kmの活断層として記載され、さらに隣接する北および東の図幅へと続いている。

(2) 判読根拠

平坦な中位段丘面を西上がりに撓曲変形させていることから、活断層と判断した。

2. 半田－武豊断層

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・長さ : 約14 km (本図郭内の掲載部のみ)
- ・断層種別 : 活断層 (活撓曲, 一部に縦ずれ, 傾動)

(※上記の各諸元については、本図郭に掲載している部分の計測及び確認結果である。)

(1) 概要

半田－武豊断層は、半田市の七本木池付近(図郭北端)から沿岸部に沿うように湾曲しながら南下し、武豊町を経由して美浜町大池まで北北東－南南西方向に延びる長さ約14 kmの活断層である。さらに北の図幅へ続き、猿投－高浜断層の南延長に当たる可能性がある。断層全体に活撓曲, 一部に縦ずれの変位, 傾動を伴う。

本断層は、今回の調査で新たに確認された活断層であり、断層が分布する地域の行政名から半田－武豊断層と命名した。

(2) 判読根拠

半田－武豊断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

2a: 中位段丘面が半田市乙川畑田町で0.5 m程度、同市乙川八幡町で2 m以上は西上がりに撓曲し、同市乙川西ノ宮町や同市大池町では上位段丘面も西上がりに大きく撓曲していることから、2条の活断層線が認定される。さらに、同市亀崎町付近では上位段丘面および中位段丘面が西へ傾動している。このような変形を生じさせた活構造は現時点では不明であるが、衣浦港付近に西側隆起の活断層が存在する可能性も考えられる。本図には海域に確実な証拠がないため記載していない。

2b: 半田市成岩本町付近の中位段丘面が5 m西上がりに撓曲し、同市荒古町付近や名鉄河和線青山駅東方の沖積面も1～2 m程度、同様に西上がりに撓曲しているため累積的活動が認定される。さらに、名鉄成岩駅付近や同市花園町付近では中位段丘面が東上がりに断層もしくは撓曲しており、これは西上がりの主断層の変形に伴って二次的に生じた副断層と解釈した。名鉄河和線沿いの花園町では西側への傾動も確認される。

2c： JR武豊駅東方の武豊町小迎^{こむかえ}や同町堀割^{ほりわり}で、沖積面が2 m程度西上がりに撓曲している。海岸部では埋め立てが行われているが、撓曲変形を認めた地点は埋め立てによる人工改変の影響はないと判断した。さらに堀田稲荷神社付近では中位段丘面が6 m以上西上がりに撓曲している。

2d： 富貴駅東方で沖積面が1～2 m西上がりに撓曲し、駅の西では中位段丘面に東上がり（計測値では0.5 m）の撓曲変形が生じている。また、布土川^{ふつとがわ}の河口部付近で沖積面が1 m西上がりに撓曲している。

3. 成岩断層^{ならわ}

- ・走向：ほぼ南北
 - ・長さ：約9 km（本図郭内の掲載部のみ）
 - ・断層種別：活断層（活撓曲、一部に縦ずれ、伏在部）
- （※上記の各諸元については、本図内に掲載している部分の計測及び確認結果である。）

（1）概要

成岩断層は、阿久比町植大^{うえだい}から矢勝川^{や かつがわ}を越え半田市に入り、同市白山町^{はくさんちょう}付近や花園町^{はなどの}付近まで度々、湾曲しながら武豊町廻間^{はざま}までほぼ南北方向に延びる長さ約9 kmの活断層である。一部に活撓曲、縦ずれの変位を伴う。西上がりを主体とするが、隆起側において東上がりの、副断層と解釈される逆向き断層を伴うことがある。

（2）判読根拠

成岩断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

3a： 名鉄植大駅西方で上位段丘面および中位段丘面が西上がりに撓曲している。半田口駅西方でも中位段丘面に西上がり4 mの撓曲が認められる。沖積面を横切る部分には地形面に変形は見られない。

3b： 知多半田駅西方でも中位段丘面に数メートルの西上がり変形がある。半田市白山町^{みやもと}や同市宮本町^{みやもと}付近では上位段丘面にも明瞭な西上がりの撓曲が認められ、西側には逆向き（東上がり）の副断層による変形もある。

3c： 青山駅西方や武豊町祠峯^{ほころみね}付近では中位段丘面および上位段丘面が西上がりに撓曲している。さらに祠峯^{しかがりいけ}の鹿狩池の東では沖積面の一部も西上がりに撓曲していると判断した。

3d： 武豊町山ノ神^{やまのかみ}、同町天神前^{てんじんまえ}付近で中位段丘面に西上がりの断層変位が認められる。北西の同町中根付近では上位段丘面が東上がりに断層変位している。さらに同町大屋敷、同町廻間付近では中位段丘面が4 m以上西上がりに撓曲している。これは後述の東大

高撓曲と近接しているため、何らかの構造上の関係が深いと考えられる。

4. 東大高撓曲^{ひがしおおだか}

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約3 km
- ・断層種別 : 活断層（活撓曲，一部に活褶曲，縦ずれ）

（1）概要

東大高撓曲は、武豊町^{ながむね}長宗から堀川^{ほりかわ}を經由し、同町東大高まで段丘面を切るように北西－南東方向に延びる長さ約3 kmの活断層である。一部に活褶曲，縦ずれの変位を伴う。明瞭な活構造であり，1:25,000都市圏活断層図「半田第2版」鈴木ほか（2009）にも明記されている。そのため独立の命名を行うが，成岩断層と極めて近接しているため構造的に一体の可能性が高い。

（2）判読根拠

東大高撓曲の判読根拠は，次のとおりである。

4a：堀川北岸の武豊町中根，同町長宗付近では上位段丘面も東上がりに撓曲している。

4b：武豊町^{やまおこし}山起，同町^{とうのした}塔ノ下付近で中位段丘面が6 m以上東上がりに撓曲している。

5. 富貴西方撓曲^{ふきせいほう}

- ・走向 : ほぼ南北
- ・長さ : 約3 km以上
- ・断層種別 : 活断層（活撓曲，一部に活褶曲，縦ずれ）

（1）概要

富貴西方撓曲は，武豊町白山から同町富貴の西方を經由して美浜町^{ひらた}平田まで，ほぼ南北方向に延びる長さ約3 km以上の活断層である。一部に活褶曲，縦ずれの変位を伴う。東大高撓曲の南延長上に位置する。東大高撓曲や，半田－武豊断層と構造上関連が深い可能性が高い。

（2）判読根拠

富貴西方撓曲の主な地点ごとの判読根拠は，次のとおりである。

5a：武豊町白山，光明寺付近で中位段丘面が背斜変形している。その東翼部での隆起量は西上がり4 m程度であり，西翼部は東上がりに撓曲している。

5b：武豊町富貴付近から南南東方向へ上位段丘面と中位段丘面とが境される崖が続き，そ

の基部において中位段丘面に西上がり[↑]の撓曲が見られることから、この崖は断層崖の可能性が高いと判断される。なお新川の南岸では沖積面も撓曲している可能性がある。

6. 千代ヶ丘撓曲^{ちよがおか}

- ・走向 : 北北西－南南東
 - ・長さ : 約5 km以上（本図郭内の掲載部のみ）
 - ・断層種別 : 活断層（一部に活撓曲）、推定活断層含む
- （※上記の各諸元については、本図内に掲載している部分の計測及び確認結果である。）

（1）概要

千代ヶ丘撓曲は、常滑市若松町^{わかまつ}（図郭北西端）から同市泉町^{いずみ}まで、丘陵部を北北西－南南東方向に延びる長さ約5 km以上の活断層である。断層北部に顕著な活撓曲を伴う。

（2）判読根拠

千代ヶ丘撓曲の主な地点ごと判読根拠は、次のとおりである。

6a： 常滑市若松町、同市本郷町^{ほんごう}付近において中位段丘面が東上がり[↑]に撓曲している。上下変位量は6～10 m程度に及ぶ。撓曲崖の東側に上位段丘面が存在し、海食崖とも重なっていると判断されるが、中位段丘面の急傾斜は異常である。

6b： 上述の急傾斜が常滑市虹の丘付近にも連続する。この付近は造成による地形改変が著しく、改変前の地形面は残っていないため利用した数値標高モデル（DEM）からは変位量計測が困難である。同市千代ヶ丘付近には明瞭な撓曲崖は確認できないが、中位段丘面に高度不連続がある。

6c： 丘陵内に線状地形および高度不連続が認められ、6a～bの延長部と判断される。

6d： 丘陵内に線状地形および高度不連続が認められ、6a～bの延長部と判断される。

7. 広目撓曲^{ひろめ}

- ・走向 : 北北西－南南東
- ・長さ : 約4 km
- ・断層種別 : 活断層（一部に傾動）

（1）概要

広目撓曲は、常滑市唐崎町^{からさき}から同市大谷^{おおたに}まで北北西－南南東方向に延びる長さ約4 km、3条の活断層である。

(2) 判読根拠

広目撓曲の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

7a： 丘陵内に線状地形および高度不連続が認められる。下記の7bの延長部と判断した。

7b： 常滑市大谷の東方で、上位段丘面が東方へ大きく傾動しており、その傾動をもたらしたと考えられる東上がりの活構造の存在が認定される。後述の8c等と地形的特徴が類似するため、撓曲と判断した。

8. 𣥁原撓曲

- ・走向：北西－南東
- ・長さ：約9 km
- ・断層種別：活断層（活撓曲、一部に縦ずれ、活褶曲、傾動）

(1) 概要

𣥁原撓曲は、常滑市新池から同市の𣥁原大池付近、武豊町を経由して美浜町の布土川付近まで、丘陵部を北西－南東方向に延びる長さ約9 kmの活断層である。

断層中央部に顕著な活撓曲、一部に活褶曲、縦ずれの変位、傾動を伴う。

(2) 判読根拠

𣥁原撓曲の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

8a： 常滑市の本宮山付近では丘陵背面が東に大きく傾動している。この傾動をもたらした構造として認定される。活断層研究会編（1991）などは本宮山撓曲と呼んでいる。本図ではさらに南へ延長すると判断し、𣥁原撓曲に含めた。

8b： 常滑市𣥁原付近では丘陵背面に撓曲が認められる。

8c： 広範囲で上位段丘面などに東上がりの撓曲が認められる。特に武豊町多賀付近においては上位段丘面に約15 mの東上がりの撓曲が認められる。

8d： 武豊町富貴西方の丘陵地内において、上位段丘面に約20 mの東上がりの高度差が生じている。

9. 別曾池撓曲

- ・走向：ほぼ南北
- ・長さ：約2 km以上
- ・断層種別：活断層（一部に傾動）

(1) 概要

別曾池撓曲は、武豊町の別曾池から美浜町の布土川付近まで丘陵部をほぼ南北方向に延びる長さ約2 km以上の活断層である。

(2) 判読根拠

別曾池付近から南方方向へ延びる線状凹地があり、その東側で上位段丘面が東方へ傾動している。この傾動を形成した活構造として認定される。

10. ^{とよおか}豊丘断層

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約4 km以上
- ・断層種別 : 活断層（活撓曲、一部に縦ずれ、傾動、伏在部）、推定活断層含む

(1) 概要

豊丘断層は、美浜町豊丘から南知多町^{とびがさき}の鳶ヶ崎付近まで段丘面上を北西－南東方向に延びる長さ約4 km以上の活断層である。断層全体に活撓曲、一部に縦ずれの変位、傾動を伴う。本断層は、今回の調査で新たに確認された活断層であり、断層が分布する付近の地名から豊丘断層と命名した。

(2) 判読根拠

豊丘断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

10a：海成段丘面と判断される中位段丘面に10m程度の南上がりの撓曲変形が認められる。その南には上位段丘面も認められるため段丘崖と位置的にほぼ一致するが、中位段丘面の急傾斜は撓曲と判断される。

10b：10aと同様の撓曲変形が連続する。地形断面からも明瞭な撓曲を確認でき、変位量は南上がり約10 mである。

10c：10aと併走する丘陵地内の線状地形が認められる。

11. ^{ごうどがわ}神戸川沿いの断層

- ・走向 : 北西－南東
- ・長さ : 約5km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

神戸川沿いの断層は、神戸川両岸に沿って延びる推定活断層で、左岸の断層は、半田市の

や すけだにいけ 八助谷池付近から同市宮本町まで、右岸の断層は、常滑市の前山池付近から丘陵部をぬけ
半田市青山まで、北西－南東方向に並走する長さ約5 km、6条の推定活断層である。

今回の調査で新たに断層変位の可能性の高い地形が確認された。従来の研究（活断層研究会編, 191, 愛知県, 1997, 牧野内, 2000など）では、神戸川沿いの断層とはやや斜交する北北西－南南東走向の平井撓曲および半田池撓曲（確実度Ⅱ）を認定していたが、今回の判読ではその走向にのびる後期更新世以降の地形面の变形は認められなかった。一部の地域には断層変位地形と判断されるものが存在するが、全域には及ばないこと、及び従来の地質調査から推定された構造の走向と異なることから、本図では活断層とは断定していない。

（2）判読根拠

神戸川沿いの断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

11a：丘陵地内のため活断層を認定するための基準となる地形面が存在しない。11dや11cで後述する構造の延長の可能性の高い傾斜変換線が存在する。

11b：丘陵地内のため活断層を認定するための基準となる地形面が存在しない。11dや11cで後述する構造の延長の可能性の高い傾斜変換線が存在する。

11c：半田市板山町付近で上位段丘面が北上がりに撓曲している可能性が高い。また同市宮本町では中位段丘面が北方へ逆傾斜している。

11d：神戸川南岸では上位段丘面と下位段丘面とを境とする崖が、川と同じ走向にのびているが、半田市板山町付近では下位段丘面が南上がりに撓曲している。こうした区間が少なくとも2 kmに及ぶ。

12. 河和付近の断層

- ・走向：北北西－南南東
- ・長さ：約5 km以上
- ・断層種別：推定活断層

（1）概要

河和付近の断層は、北北西－南南東方向に美浜町の布土川付近から同町浦戸付近まで丘陵部を断続的に縦断しながら延びる長さ約5 km以上、4条の推定活断層である。

（2）判読根拠

河和付近の断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

12a：丘陵地内に線状地形として認められる。更新世の堆積物や段丘面が存在しないため活構造を認定できる地形的な証拠はないが、牧野内（2000）などは地質調査の結果、ほぼ

この位置に鮮新統の常滑層群を切る断層（時志西断層）を確認し，古布断層に連続する活断層であるとしている。

12b：丘陵地内に線状地形として認められる。更新世の堆積物や段丘面が存在しないため活構造を認定できる地形的な証拠はないが，牧野内（2000）などは地質調査の結果，ほぼこの位置に鮮新統の常滑層群を切る断層（河和断層）および河和背斜を認定し，古布断層に連続する活断層であるとしている。

13. 古布断層

- ・走向：北北西－南南東
- ・長さ：約3 km以上
- ・断層種別：推定活断層

（1）概要

古布断層は，美浜町古布から南知多町^{はじかみ}初神まで丘陵部を北北西－南南東方向に延びる長さ約3 km以上の推定活断層である。

（2）判読根拠

牧野内（1976, 2000）などにおいて，鮮新統の師崎層群を変位させる明瞭な断層が確認されている。この断層線は丘陵地内に明瞭な線状地形を形成している。第四紀の活動の可能性はあるが，この付近には更新世の堆積層や段丘面が存在しないため，活断層と認定することが現時点では困難であり，推定活断層とした。

（名古屋大学教授 鈴木康弘）

（東京大学地震研究所准教授 石山達也）

（京都大学名誉教授 岡田篤正）

（富山大学准教授 安江健一）

引用文献

愛知県（1997）：『愛知県活断層アトラス』愛知県防災会議地震部会，83p.

活断層研究会編（1991）：『新編日本の活断層－分布と資料－』東京大学出版会，440p.

地震調査研究推進本部地震調査委員会（2004）：屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯の評価，50p.

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/53_54_byobu_ena_sanage.pdf

（2023年2月1日閲覧）

牧野内 猛（1976）：知多半島南部の地質構造と伊勢湾周辺地域の構造運動。地質学雑誌，82，311-325.

牧野内 猛（2000）3. 知多半島域の活断層。愛知県の活断層（その 2），活断層文献調査研

究－尾張地域－，愛知県防災会議地震部会，49-91.

鈴木康弘・渡辺満久・岡田篤正（2009）：1:25,000都市圏活断層図「半田第2版」，国土地理院

使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/40,000	M192-A-5, M194-A-3, M197-A-3No1, M198-A-1, M263-A-3, M448
米軍（モノクロ）	1/10,000	R239-No1, R348, R728, R851, R1493, R2985
国土地理院（カラー）	1/10,000	CCB7717
国土地理院（モノクロ）	1/20,000	MCB641X, MCB736X

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院が管理する航空レーザ測量データから1mDEMを作成して使用.

師崎

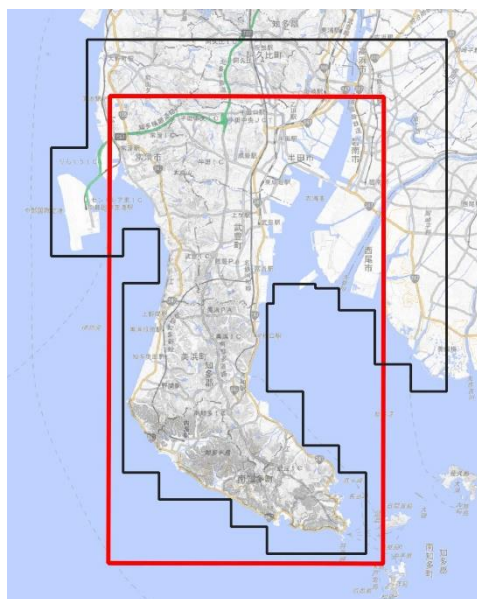


図1 航空レーザ測量データ使用範囲（黒界線包囲部分）.

なお，黒界線包囲部分以外は「基盤地図情報数値標高モデル（5mDEMないし10mDEM）」を使用した.

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第1回委員会	令和4年8月22日(月)	Web会議
第1回全体部会（クロスチェック）	令和4年9月28日(水)	イオンコンパス 東京八重洲会議室
地域部会（クロスチェック）	令和4年11月11日(金)	イオンコンパス 東京八重洲会議室
第2回委員会	令和4年12月19日(月)	Web会議
第2回全体部会（クロスチェック）	令和4年12月23日(金)	イオンコンパス 東京八重洲会議室

b. 屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯とその周辺「師崎」の作成委員（令和4年度）

図名	氏名	所属
師崎	○ 鈴木 康弘	名古屋大学教授
	石山 達也	東京大学地震研究所准教授
	岡田 篤正	京都大学名誉教授
	安江 健一	富山大学准教授

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順。

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
電話：029（864）1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

鈴木康弘・石山達也・岡田篤正・安江健一（2023）：1:25,000活断層図「師崎」．国土地理院．

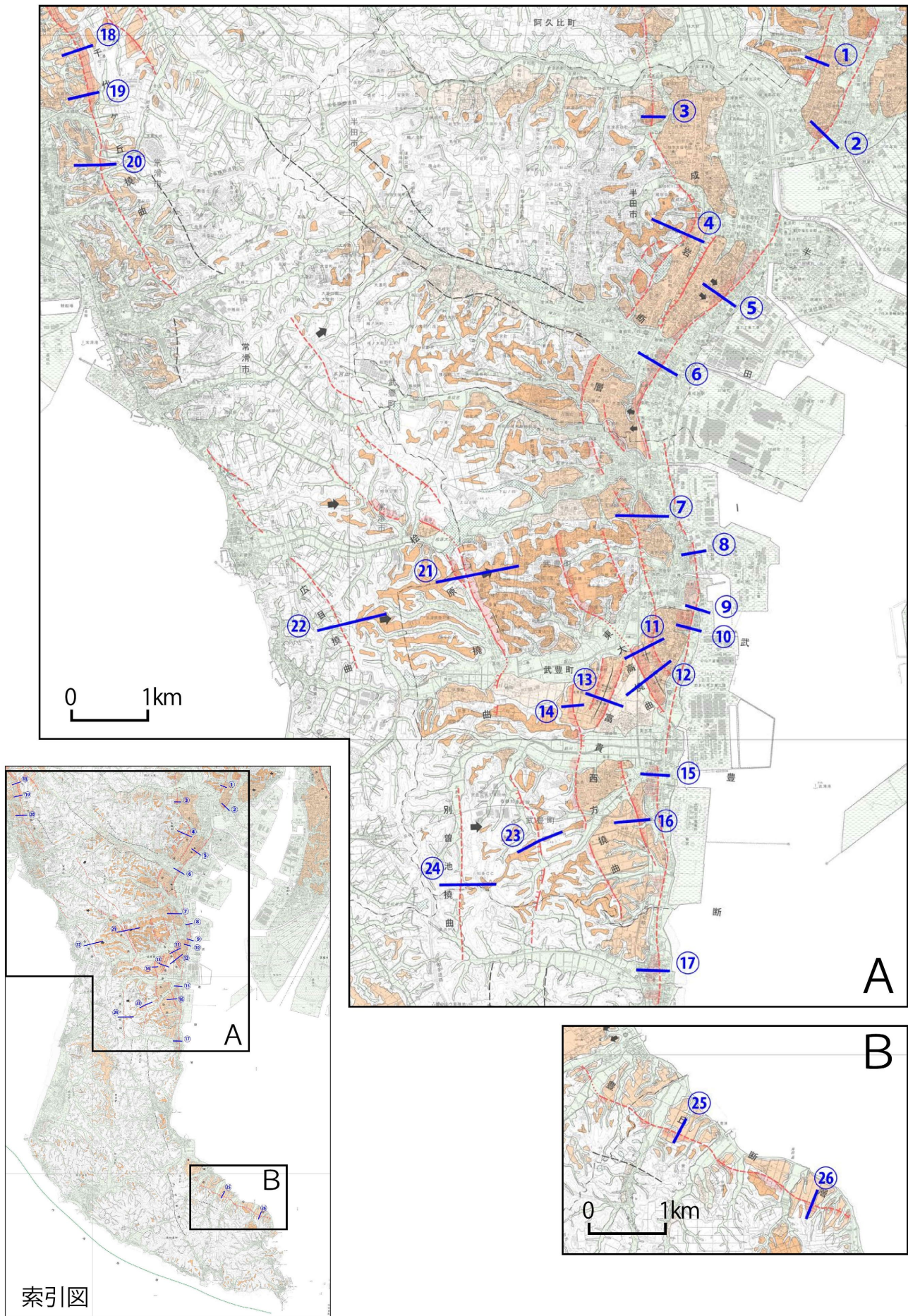
b. 解説書を引用する場合

鈴木康弘・石山達也・岡田篤正・安江健一（2023）：1:25,000活断層図 屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯とその周辺「師崎」解説書．国土地理院，20p．

1

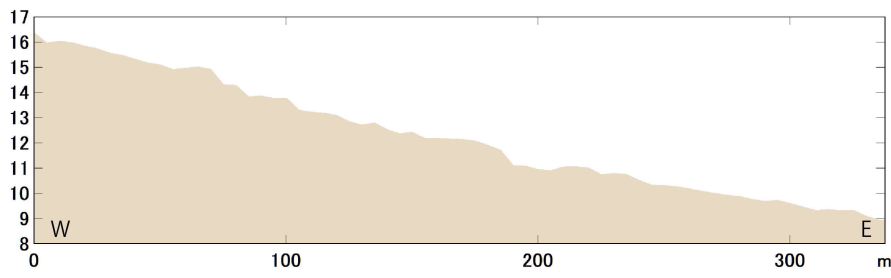


付図 地形断面図（地形断面測線位置図）

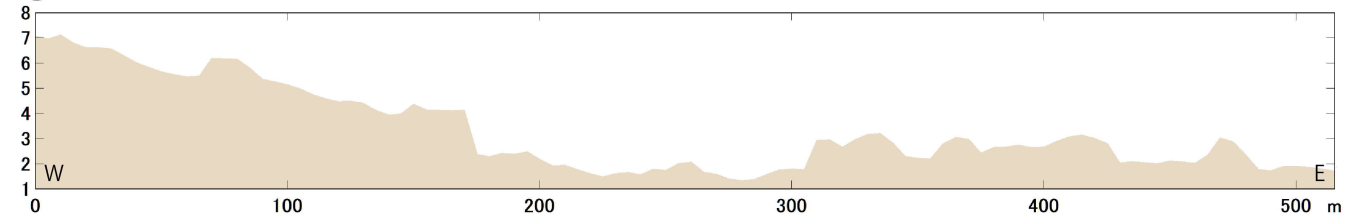


地形断面図（1/6） 縦横比 10 倍

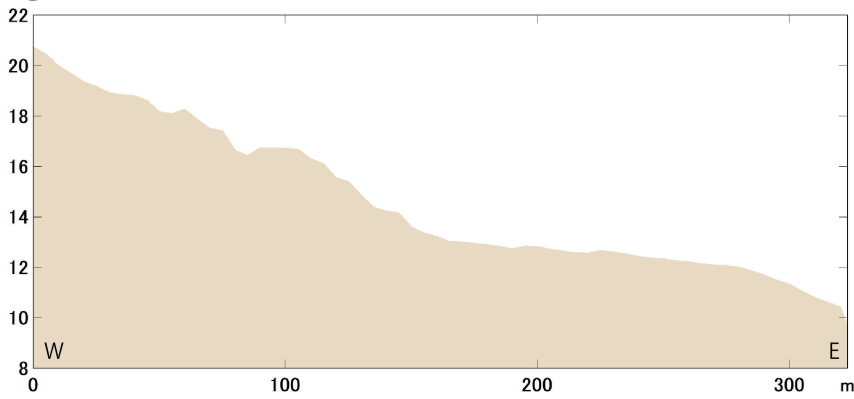
①



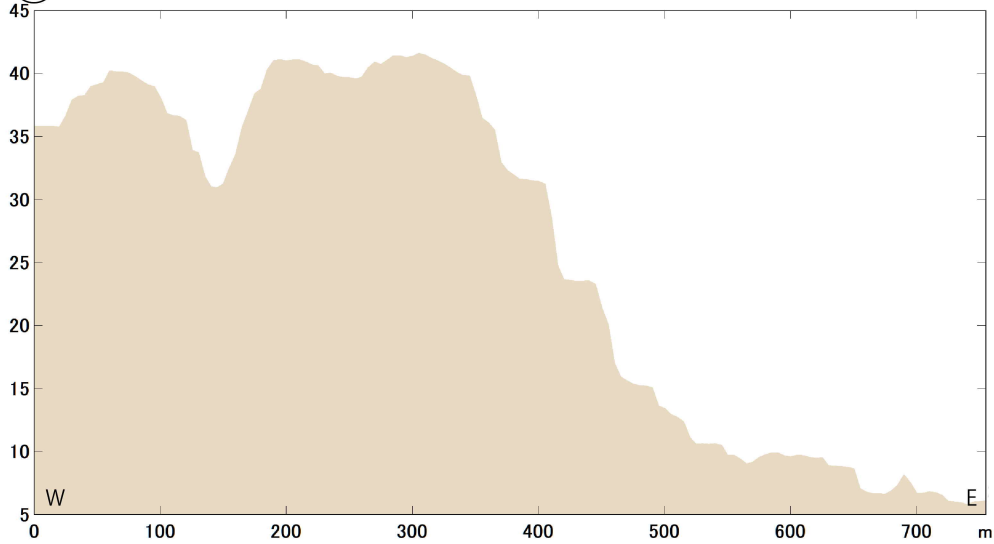
②



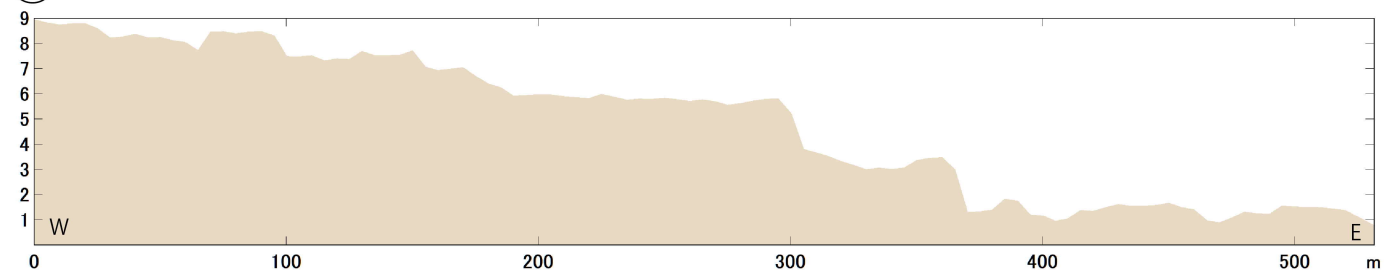
③



④

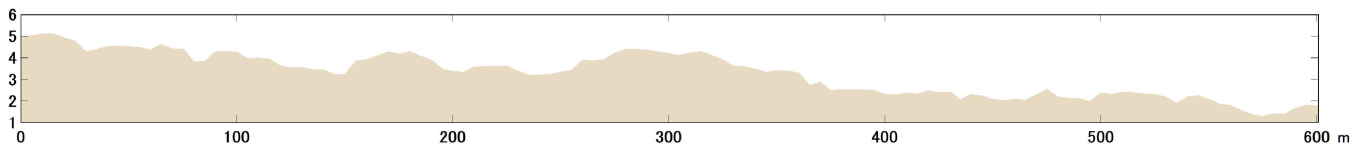


⑤

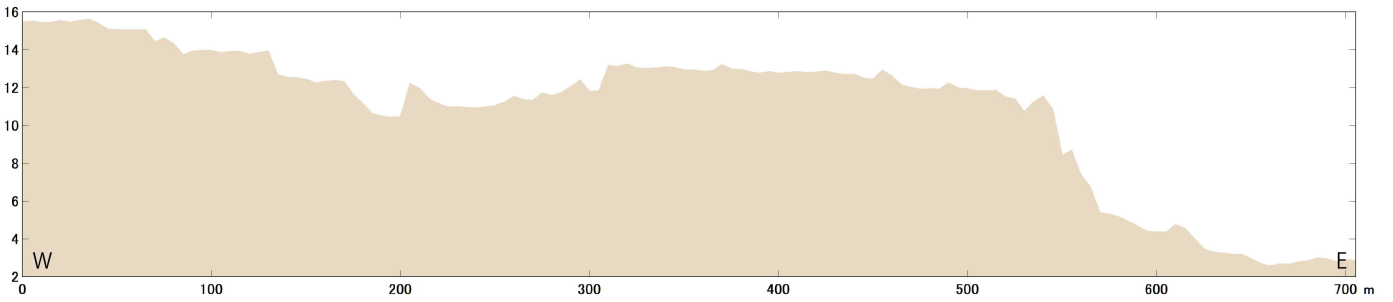


地形断面図（2/6） 縦横比 10 倍

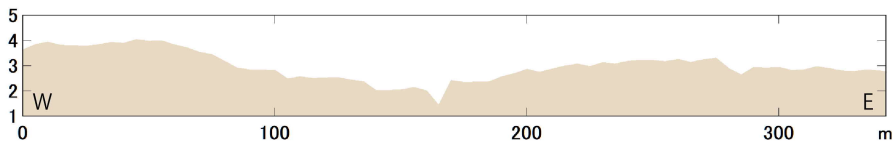
⑥



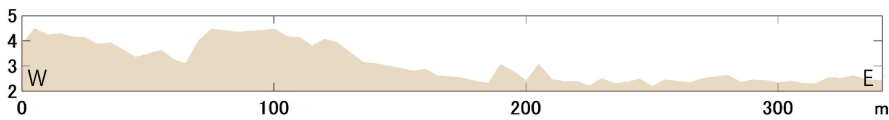
⑦



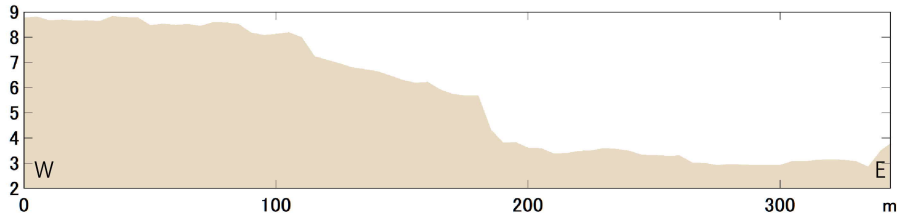
⑧



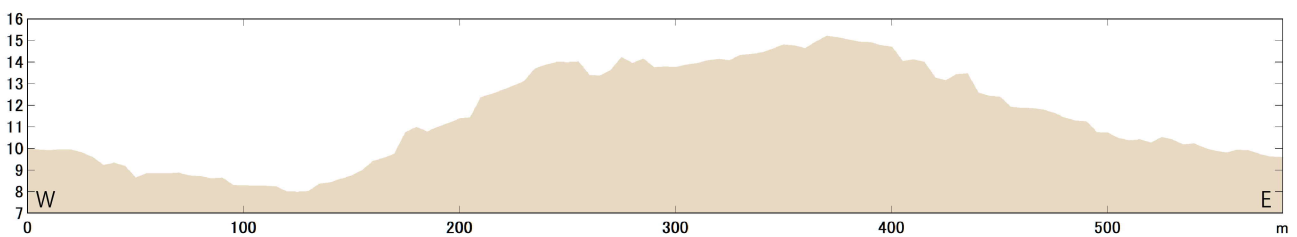
⑨



⑩

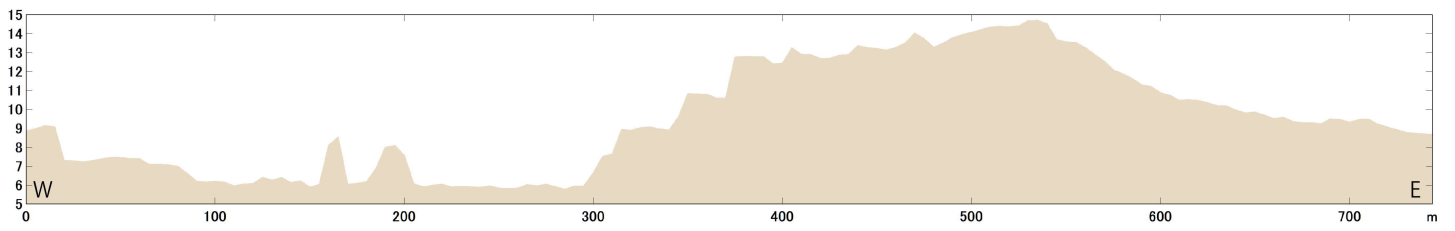


⑪

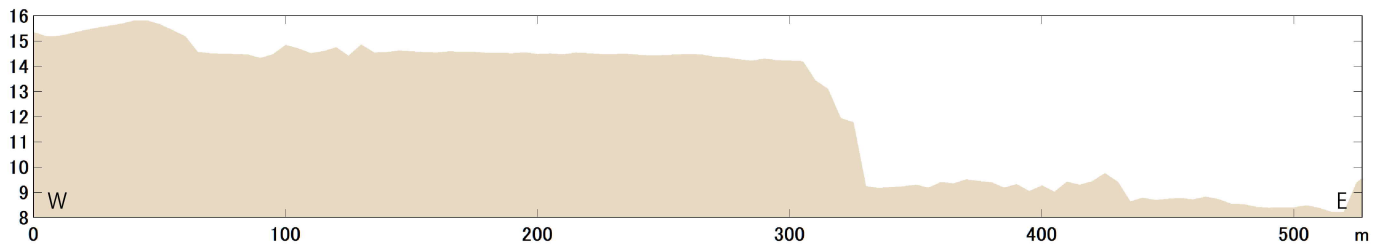


地形断面図（3/6） 縦横比 10 倍

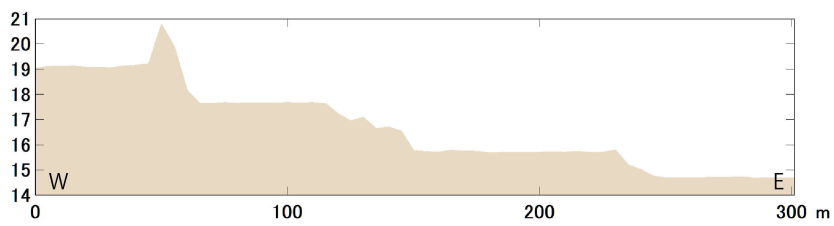
⑫



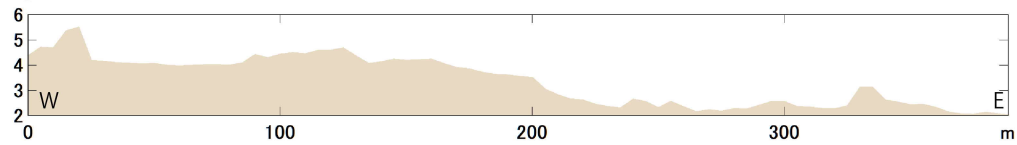
⑬



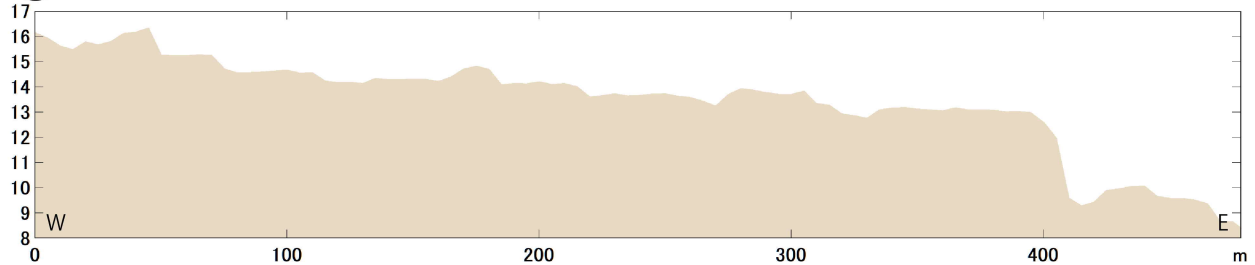
⑭



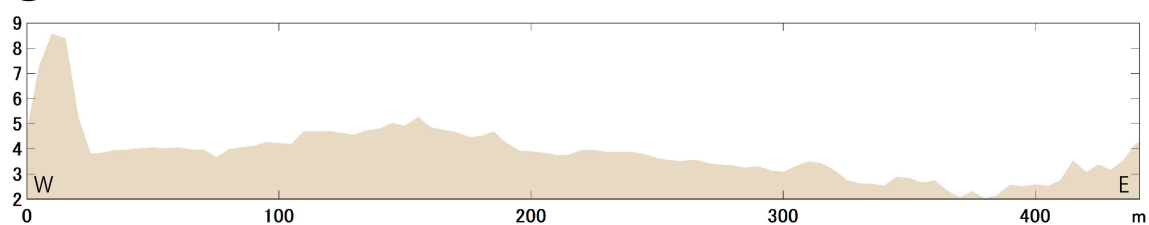
⑮



⑯

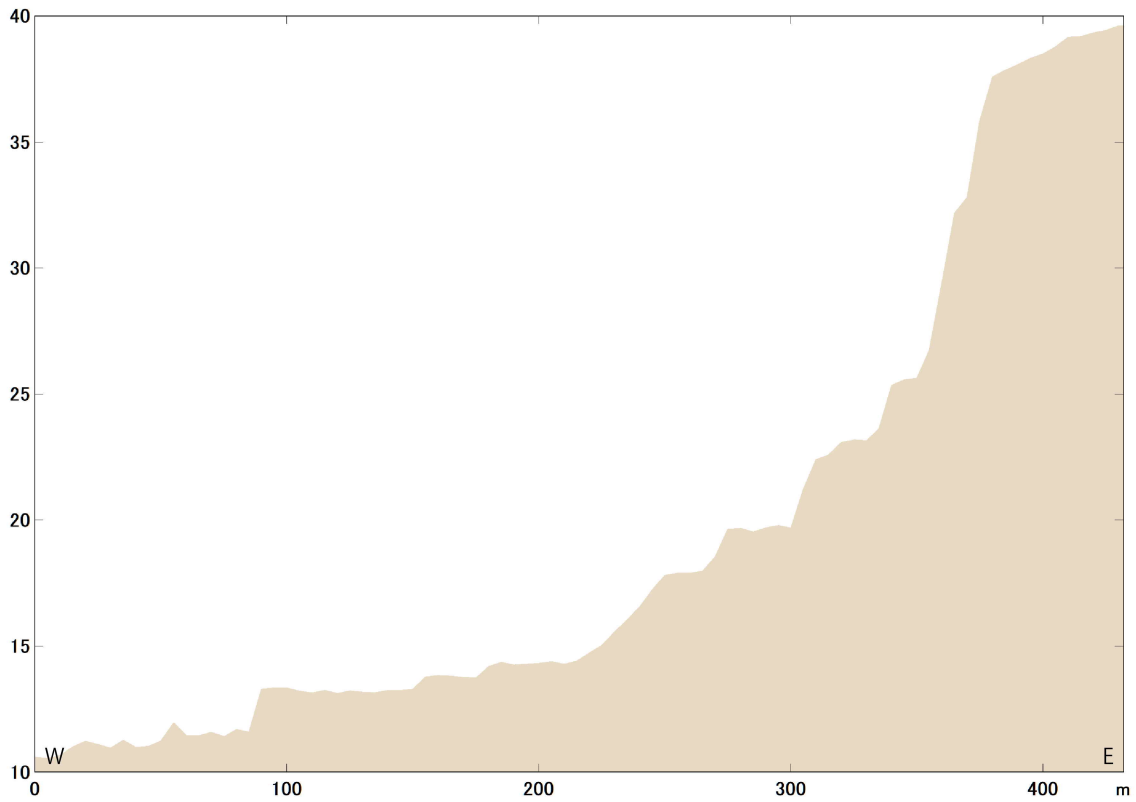


⑰

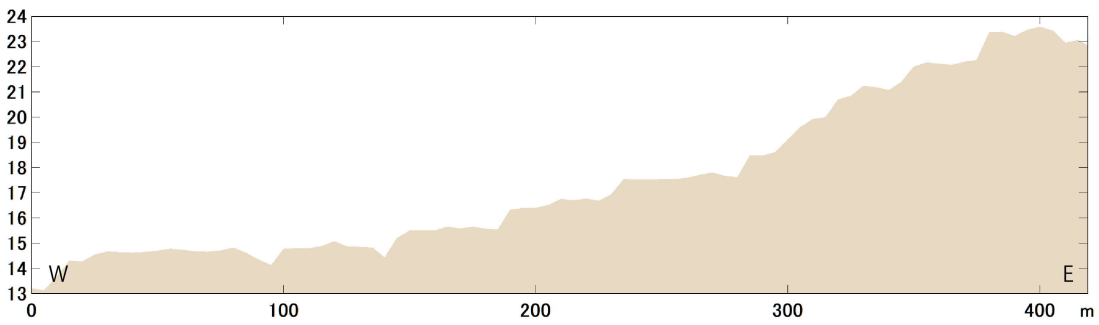


地形断面図（4/6） 縦横比 10 倍

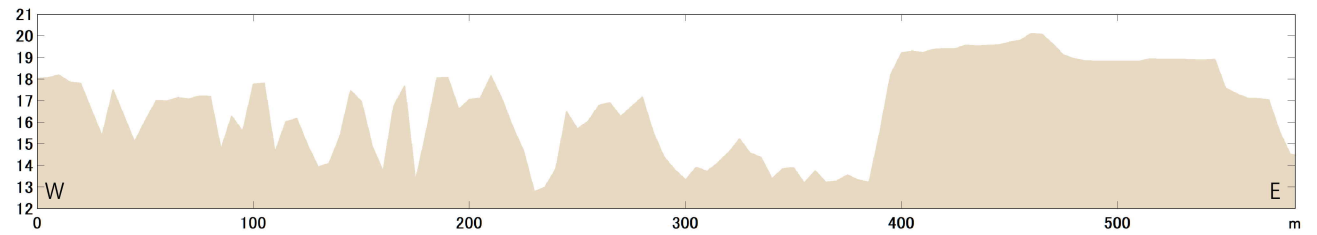
18



19

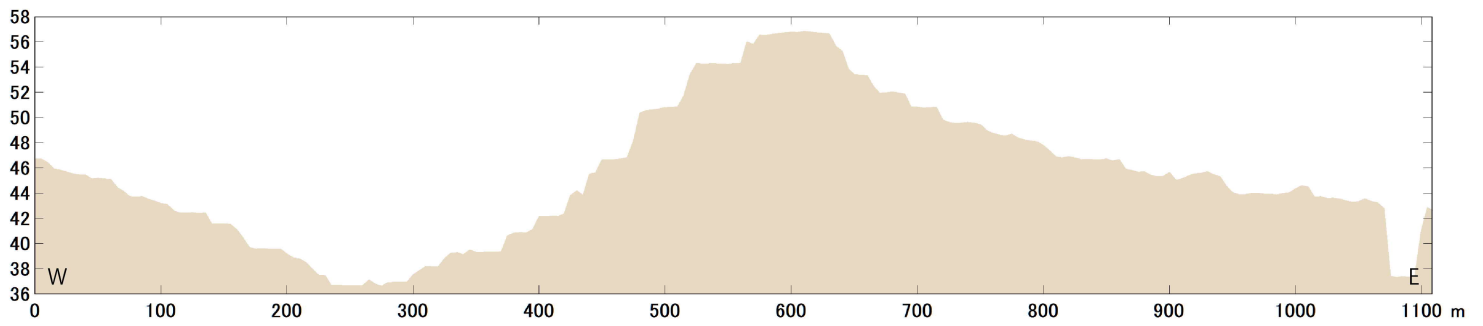


20

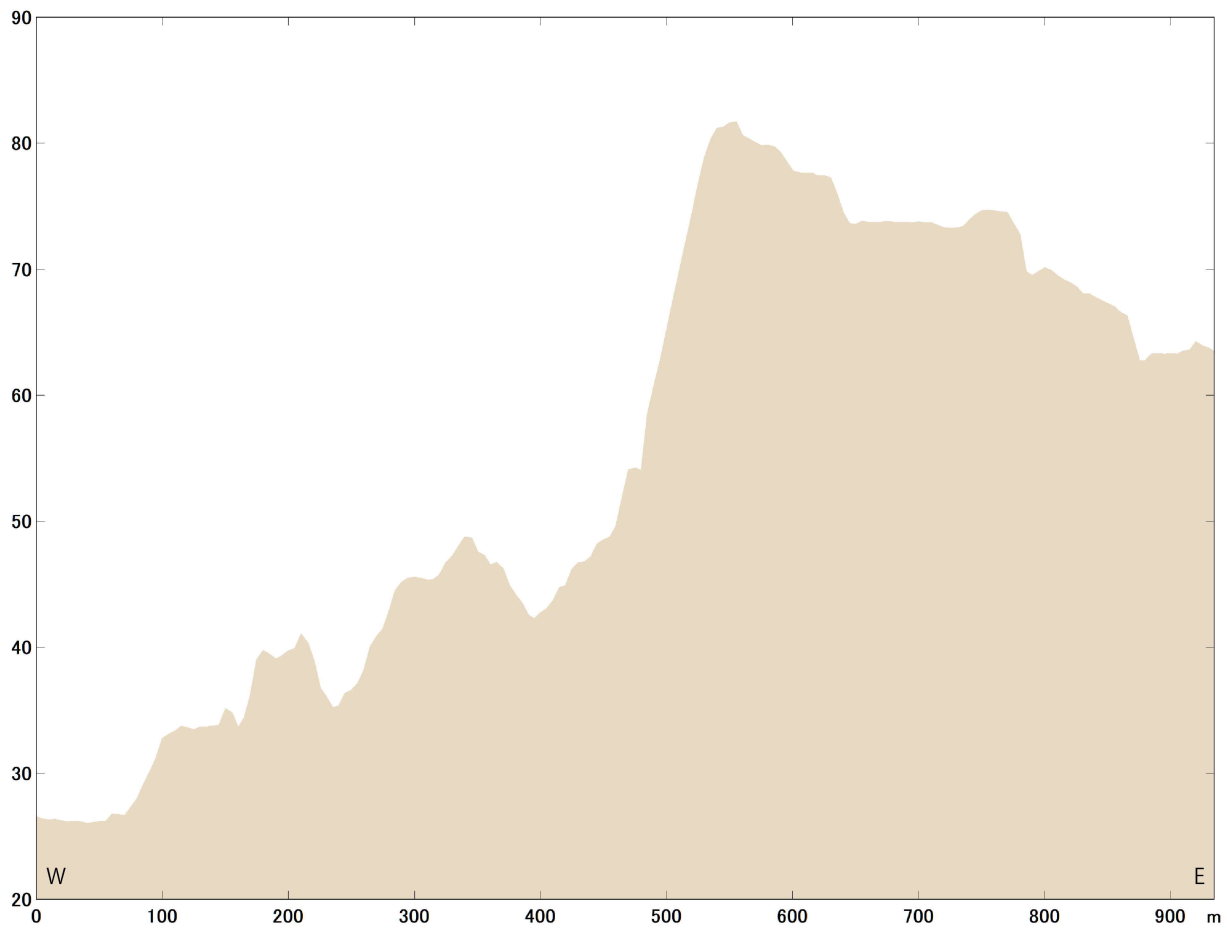


地形断面図（5/6） 縦横比 10 倍

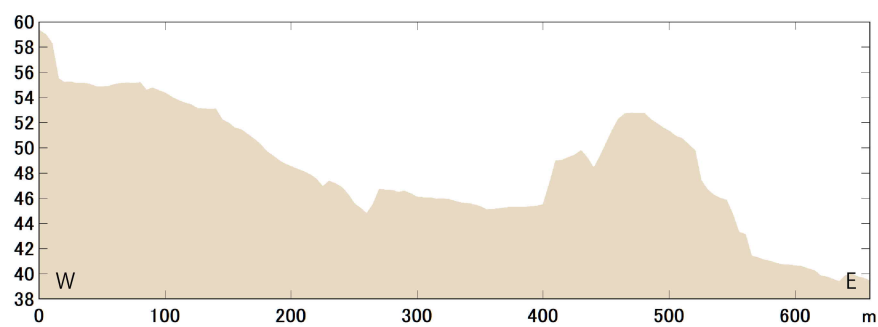
21



22



23



地形断面図（6/6） 縦横比 10 倍

